

たのですが、今では最盛期の 4 分の 1 に減少しました。今も結構売れているのは、建設資材のサイディング(外壁材)です。というのは、ロシア人は戸建ての家を建てたいというのがあって、しかも彼らは日曜大工が趣味ですから、自分で材料を買ってきて、ほとんど手作りで自分の家を建ててしまうのです。



信頼できるパートナーをいかに作るか

何をやるにしても、信頼できるパートナーをいかに作るができるか、それに尽きると思うのです。商売するとき、「こいつだったら騙されてもいい」と思えるような人間にいかに出会うか、そういう人間に出会った人は商売をうまくやっています。日本人は農耕民族なので、一発で儲けようとはあまり思わない。毎年どれだけ成長するか、伸びていくかというのが日本人の企業経営の基本的考え方です。ところが、ロシア人やヨーロッパ人は狩猟民族ですから、一発で儲けようというのが結構多いのです。そこをどうやって考え方を合わせていくかという点がポイントだと思います。

安倍政権の 8 項目提案

今年 5 月ソチでの日露首脳会談で安倍首相は「対ロ協力 8 項目提案」を行いました。この提案は非常によくできていて、とくに 1 番と 2 番はロシア国民のニーズに合っているというか、ロシア人を喜ばせることが書いてある。ロシア人の平均寿命は日本人の平均寿命よりまだかなり低い。健康問題は大きな関心事です。ウラジオストクに行けばよくわかりますが、ロシアの街はなかなかきれいにならない。交通網の整備や廃棄物処理など快適な都市づくりも切実な課題です。この辺でロシア人を喜ばせて、「島の問題」解決の条件を整備する魂胆かなと思いますが、この作戦は悪くないと思います。今のプーチンさんだったら少しぐらいの反対があっても、こうと決めればやるのではないかと思うし、日本の国内も安倍政権は安定しているので、これがよい方向に行けばいいがと思いつつ、新聞報道などを見えています。

対ロ協力 8 項目提案

1. 健康寿命の伸長
2. 快適・清潔な都市づくり
3. 中小企業交流・協力拡大
4. エネルギー協力
5. 産業の多様化・生産性向上
6. 極東の産業振興・輸出基地化
7. 先端技術協力
8. 人的交流の拡大

日本ロシア文学会 公開シンポジウム

「ロシアの文化 その魅力と鑑賞法」

日時: 2017 年 7 月 8 日(土) 14 時開始(予定)

場所: 東京大学(本郷キャンパス) 法文 1 号館 113 教室

(文京区本郷 7-3-1) * 予約不要

入場無料 (どなたでもご来場頂けます)

ヨーロッパとは異なる文化を生み出してきたロシア。世界を魅了する文学や芸術の多くが、ロシア帝国で創られました。1917 年に起きたロシア革命で帝国ロシアは消え、しかしそれから 100 年、ソ連時代を経て現代にいたるまで、ロシアはつねにその文化の力を発信してきました。

政治や体制は変わっても、ロシアは不思議な力で私たちを惹きつけます。でもその魅力は、本当のところ何にあるのでしょうか？ロシア文学には、どのような鑑賞の仕方があるのでしょうか？そしてロシア文化の力とは、どんなものなのでしょうか？

ロシア革命から 100 年の今年、日本ロシア文学会の精鋭たちが、こうした疑問に答えます。いっしょにロシア文化の魅力とその鑑賞法を学んでみませんか？

プログラム (仮)

* 内容は変更される場合があります

Part I. ロシア文学の鑑賞法

望月哲男 (北海道大学名誉教授)

『白痴』と『アンナ・カレーニナ』

貝澤 哉 (早稲田大学教授)

「ナボコフ初期小説の楽しい読み方——『カメラ・オブスクーラ』、『絶望』、『偉業』を翻訳して」

鳥山祐介 (千葉大学准教授)

「18 世紀にロシア文学などあったのか？」

Part II. ロシアの文化力を知ろう

大野斉子 (宇都宮大学准教授)

「チャンネル No. 5 とロシアの香水史」

平野恵美子 (東京大学助教)

「ラフマニノフと鐘」

司会: 八木君人 (早稲田大学専任講師)

詳細は後日 HP でお知らせします:

<http://yaar.jpn.org/> (日本ロシア文学会)

問い合わせ: Email: gakkai2017@gmail.com